

旭ろうさい病院ニュース

病院情報誌 第 178 号

令和 5 年 2 月 1 日発行

発行所: 旭ろうさい病院

〒488-8585

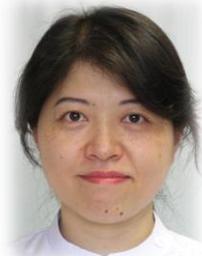
尾張旭市平子町北 61 番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

エタンブトール視神経症について

眼科部長 丹羽 慶子



エタンブトール(EB)視神経症は、従来から知られている薬剤性視神経症の代表で、1962年に報告されて以来、今日でも薬剤性視神経症の中で最も遭遇するといわれています。

主たる症状は視力低下、中心暗点で、無痛性、両眼性で緩徐に悪化します。他に、色覚異常、周辺視野異常(耳側の感度低下)、中心フリッカ値低下、コントラスト感度の異常がみられることがあります。EB 内服直後ではなく、通常数ヶ月後に発症します。初期には、視力低下の自覚症状は伴わず、眼科的視機能検査を行ってはじめてみつかることもあります。

治療は、特異的なものはなく、投与中止とともに、ビタミン B 群薬の投与、亜鉛の補給が試みられます。EB 投与中止後も2~3ヶ月はさらに進行し、その後半年から2年程度かかって次第に回復してくるようですが、発見が遅れると不可逆性な変化(視神経萎縮など)をきたす症例もあるといわれています。

近年、非結核性(非定型)抗酸菌症に対する EB 投与が増加しています。この非結核性抗酸菌症は結核性と異なり、高齢者に多く、EB 投与期間が数年もの長期に及ぶことがあります。EB 視神経症の発症増加が問題となっています。

このような背景のもと、日本結核・非結核性抗酸菌症学会、日本眼科学会、日本神経眼科学会の3学会で「エタンブトール投与に際して行うべき眼科副作用対策」につき検討され、2020 年の日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会のシンポジウムで報告され、内科医向けに「エタンブトールによる視神経障害に関する見解」が同学会誌に掲載されました。投与前に眼科的副作用や早期発見のためのセルフチェック、眼科診察につき説明すること、投与中は定期的(1~3ヶ月毎)に眼科で評価を受けること、など、EB による視神経障害回避のための提言が述べられています。(セルフチェック(抜粋):毎朝、片眼ずつ、一定の距離で新聞・雑誌・コンピューター・スマートフォンなどの字を読み、前日に比べて見にくくなっていないかを確認する)

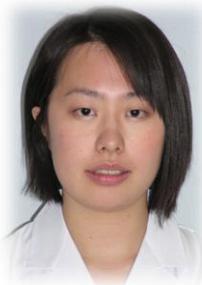
当院でも以前から、投与前に呼吸器内科から依頼があり、眼科一般検査を行ってその時点での眼科疾患につき評価し、再度、視神経症の症状や早期発見の重要性、セルフチェックについて説明しています。内服開始後は、呼吸器内科受診日と同日で、視力検査、中心フリッカ、簡易中心視野検査などを施行し、経過観察しています。また、セルフチェックなどで、見え方に異常がある場合は、予約日を待たずに受診するよう説明しています。

正確な数字はわかりませんが、当院眼科で EB 内服中の定期受診は、毎月 10 人程度いらっしゃるかと思います。(受診間隔は1~3か月)この約 10 年間で5~6人の EB 視神経症の発症をみましたが、幸い全員、早めに受診され、EB 内服中止後数カ月で視力は回復しています。

薬剤の副作用を完全に抑止することは不可能ですが、副作用につき理解し、早期発見に努めることで障害の残存を回避していきたいものです。

ロービジョンについて

眼科 視能訓練士 片浦美咲



人間は外界からの情報を目から 80%以上得ていると言われています。そのため、「見える」ということは QOL を維持し、生活していく上で大切なことです。

現在日本の失明原因は緑内障(28.6%)、網膜色素変性症(14.0%)、糖尿病性網膜症(12.8%)、黄斑変性症(8.0%)です。完全に視覚がない状態(=盲目)ではないですが、現行の治療手段で改善が期待できない視機能の障害があるために、長期にわたり日常生活や社会生活に相当な制限を受ける状態や障害をロービジョン(低視力)と言います。日本におけるロービジョンの患者数は 150 万人と言われており、自分がロービジョンだと認識しない方もいらっしゃるので実患者数はさらに多いものと思われます。

「見にくい」と言っても、人それぞれであり、対象物がぼやける、目がかすむ、暗点のせいで見ようとするところが見えない、視野が狭いので探さないと見えないと見えないなど、ひと言で「見にくい」といっても多岐にわたります。日常生活をおくるのに必要な視力は良い方の目が 0.5 と言われています。視力が 0.5 より低いロービジョンの人々にとって読めない文章であっても、明朝体よりもゴシック体の使用、黒い背景に白い字で書くなど工夫することで、コントラストが上がり読みやすくなります。調理は黒いまな板に白いセラミックの包丁を使用したり、配膳は黒いランチョンマットに白い食器を置いたりすることで、見え方を若干ですが改善することができます。

また近年 iPhone などの電子デバイスで、簡単に字を拡大、白黒反転(黒背景に白字)、音声読み取り機能などの設定ができるようになっています。iPhone では、アクセシビリティから設定を変更することができます。100 円均一には、白黒反転した文房具や出る量が決まった醤油さしなど、日常の便利グッズが以前に比べかなり充実してきています。

眼科では、屈折異常といって遠視や近視、乱視を眼鏡やコンタクトレンズで矯正し、網膜上に焦点が合う状態にすることで裸眼のときのピンボケ状態を改善し得ます。ロービジョンケアの第一歩は適切な屈折矯正(眼鏡処方)です。眼鏡処方はロービジョンの方に限らず、誰でも非侵襲的に視力向上し得ます。「見える」人にとっては、眼鏡なんて…情けないと思われるかもしれません、今は眼鏡がファッショの一部となりつつあり、全然恥ずかしいことではなくなっています。

目を細めて物を見るようになったり、スマホを離して見ている方に、眼鏡でどのように見えるか是非とも一度お試し頂きたいと思います。

<ロービジョンの方に対し視能訓練士が眼科外来で行っていること>

- 保有している視機能の把握(一般的な眼科検査:視力検査、視野検査など)
- 傾聴(何か困っていることやニーズを聞き出す)
- 眼鏡や拡大鏡などの各種補助具の選定、指導
- 情報提供(関連情報、機関の紹介、スマートサイトあいち等サイトの紹介)

安藤医師の表彰について

令和4年12月1日(木)、尾張旭市の市功労者表彰式において、安藤郁子小児科医師が永年にわたり教育・文化の振興に貢献したことが認められ、表彰されましたので謹んでお知らせいたします。



安藤小児科医師は、平成7年に当院の小児科部長として着任、平成30年に副院長に就任され、令和2年に定年を迎えられました。定年後も引き続き当院で発達支援センター長として勤務(非常勤)され、現在に至っています。

これまでの当院での診療を通じ後進の育成に尽力されるとともに、尾張旭市の教育支援委員会の委員を継続して10年間務められ、尾張旭市教育委員会の諮問に応じて、尾張旭市の児童・生徒の適正な就学・教育支援に関する審議を行い、答申を行ってきました。

愛知県から表彰されました

愛知県は2022年に県政150周年を迎えました。その記念行事の一つとして、永年にわたり県行政の推進や発展などに功績・功労のある団体として、当院が表彰されました。

引き続き、地域医療を基盤に勤労者医療を進め、地域の方々や勤労者の皆様に信頼していただける医療を提供する病院として勤めて参ります。

